

CNAレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 12 No.18 2010年9月30日号

編集:editor@cnar.jp 広告:pr@cnar.jp 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2010 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

フォースメディア、低コストマルチベンダー対応 TV会議専用レコーダーを発売

株式会社フォースメディア(東京都品川区)は、マルチベンダー対応 TV 会議専用レコーダー「TV 会議録画 Station」を9月8日発表。同社の法人向けオリジナルブランド「Biz-Force(ビズフォース)」第一弾の製品。



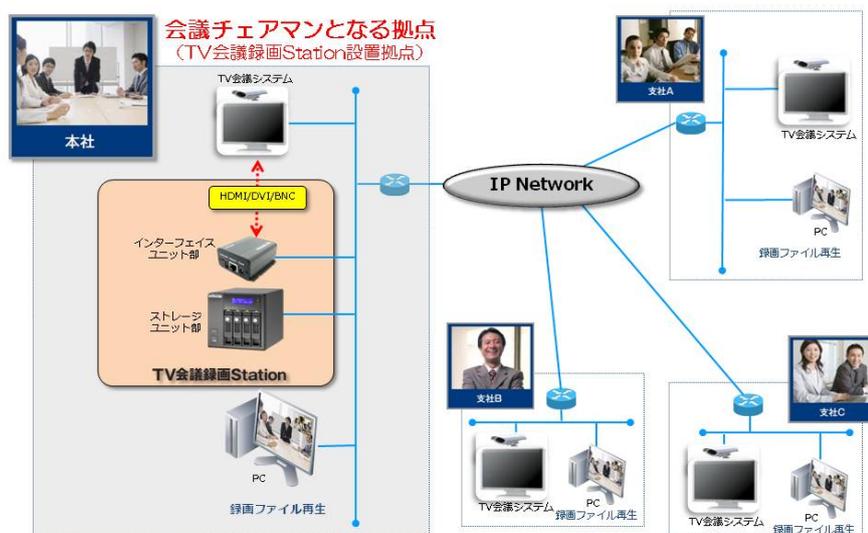
TV 会議録画 Station(フォースメディア資料)

TV 会議録画 Station は、テレビ会議の様相を録画・保存・再生することが可能で、ライフサイズ、ポリコム、ソニー、タンバーク各社のテレビ会議システム用に対応している。

「テレビ会議用の録画装置というと、既にメーカー純正テレビ会議レコーダーが市場では提供されている。もちろん、メーカー純正テレビ会議レコーダーは、テレビ会議に特化しているだけあって、複数の会議セッションを同時に録画するなど、録画・再生とも高性能である。しかし、非常に高価である。一方、当社の TV 会議録画 Station は、HD や予約録画、またストリーミングなどの機能は提供していないが、テレビ会議の録画と再生の基本的な機能に絞り、メーカー純正テレビ会議レコーダーに比べ桁少ない 78 万円からという低コストを実現した。」(フォースメディア)

フォースメディアによると、テレビ会議向けの録画機能の用途としては、会議議事録、遠隔講義等の録画・再生、コンプライアンスの為の記録・保管、研修用コンテンツとして再利用などがあるという。

TV会議録画Station接続図



「録画機能を追加することでテレビ会議は企業内や学校などでもっと有効に使えると思う。今回低コストの録画製品を出すことで、テレビ会議向け録画の需要をさらに喚起したいと考えている。」(フォースメディア)

TV 会議録画 Station は、最大録画解像度は、D1(720 x 480/30fps) で、その他にも 4CIF など複数の解像度に対応。映像圧縮方式は、H.264、録画ファイルフォーマットは、AVI 形式となっている。また録画されたファイルは、TV 会議録画 Station に内蔵している 6TB(RAID5 時)ハードディスクに保存され、保存可能時間は、約 12,000 時間(H.264 時)となっている。「この録画時間は、

力端子と接続する。

TV会議録画 Stationは、9月下旬より販売開始した。価格は、78万円(税別)～。製品購入後3年間の製品保証と3年間のオンサイト保守をパッケージして提供。また、別売のQNAP社NASを利用することにより、リモートレプリケーション機能にてデータのバックアップを構築することも可能。

「TV会議録画 Stationの次回以降のバージョンでは、ストリーミングやアップルのiPod対応なども検討している。ユーザーニーズを見極めながらTV会議録画 Stationを進化させていきたい。また一緒にTV会議録画 Stationを販売していくパートナーも開拓したいと考えている。」(フォースメディア)

フォースメディアは、2010年1月22日に設立。事業内容は、海外グローバルブランドやエレクトロニクス製品の輸入と販売を手がけるとともに、自社オリジナルブランド「J-Force」(コンシューマ向け)と「Biz-Force」(法人向け)による製造と販売も行っている。また、今年6月には、米国ライフサイズ社国内総代理店である株式会社日立ハイテクノロジーズ(東京都港区)と販売契約を締結し、国内正規販売リセラーとしてライフサイズ社ビデオ会議システムの販売を開始している。(6月28日)

ニューロネット、Web会議アプライアンスサーバーとパッケージ提供を開始

ニューロネット株式会社(東京都渋谷区)は、「SaaSBoardアプライアンスサーバー」と、「SaaSBoardパッケージ」の提供を開始すると発表。(9月2日)

SaaSBoardアプライアンスサーバーは、ニューロネット指定のサーバ用ハードウェアにWeb会議SaaSBoardを設定した専用サーバを提供する。導入したユーザは、社内のネットワークに接続して運用できる。

「近年、クラウドコンピューティングやSaaSが徐々に浸透してきているが、情報漏洩懸念や自社独自の運用の面から自社内に設置したいという要望も根強く、そういった声に今回回答えた。」(ニューロネット)

アプライアンスサーバーは、3つのタイプを提供する。

(1)「SaaSBoard/Collaboアプライアンス」:同社選定のサーバ用ハードウェアに、ID型Webコラボレーションシステム「SaaSBoard/Collabo」とユーザが指定するID数を設定。ID数は、100ID以上1,000IDまで設定可能。月額費用は、2,000円×ID数。

(2)「SaaSBoard/Roomアプライアンス」:同社選定のサーバ用ハードウェアに、会議室型Web会議システム「SaaSBoard/Room」を、ユーザ指定のRoomタイプとRoom数を設定。たとえば、100名同時利用できるRoom100を1室、同50名用Room50を3室、同18名用Room18を8室というように設定できる。トータルの収容人数が50以上500まで設定可能。前記の場合は、394人収容することになる。月額利用料は、1,200円×収容人数。

(3)「Collabo/Room複合アプライアンス」:同社選定のサーバ用ハードウェアに、前述のID型のSaaSBoard/Collaboと会議室型SaaSBoardRoomを一緒に提供するもの。その際には、SaaSBoard/Collaboには、ユーザ指定のID数を設定し、またSaaSBoard/Roomには、ユーザ指定のRoomタイプとRoom数を設定する。CollaboのID数とRoomの収容人数の合計が50以上500まで設定可能。月額利用料は、2,000円×ID数+1,200円×収容人数。

いずれのタイプも初期費用500,000円(初回のみ)。また設置費用については、別途見積が必要になる。利用条件は、100Mbps以上の専有LANでの使用。3年契約、4年以降は月額利用料半額となっている。

一方、SaaSBoardパッケージは、ユーザ企業が指定するデータセンターへSaaSBoardソフトウェアをパッケージ導入するもの。

SaaSBoard/Collaboパッケージであれば、1,000ID以上、SaaSBoard/Roomパッケージであれば収容人数500以上、Collabo/Room複合型であれば、ID数と収容人数の合計が500以上の要望に対応する。価格は規模によりボリュームディスカウントで提供する。

「携帯電話のように、Web会議がいつでも必要な時に使

えるように、全社員にIDを割り当てる大規模ユーザも増えてきている。また、社内の会議室がいつも予約で満室で必要な時に利用できない企業もふえてきている。こういったユーザのために、顧客が指定するデータセンターへ SaaSBoard ソフトウェアパッケージを導入し、プライベートクラウド構築を支援する。」(ニューロネット)

今回発表したアプライアンスサーバーとパッケージとも、契約からサーバ導入調整、引き渡し、運用サポートまでワンストップで提供するという。

製品デモレポート

ポリコムジャパン、OTX 300 バーチャルデモ実施、デザイン刷新、最新コーデック搭載、自動昇降型コンテンツモニタの他に、相手を3Dのように立体的に映し出す効果のリアウォールを採用

新しいテレプレゼンスソリューション「Polycom OTX 300」を7月下旬に発表したポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)では、実機の設置を来年の1月に控え、現在、30分ほどのOTX 300のバーチャルデモを定期的に行っている。そこでCNAレポート・ジャパンの橋本(筆者)は、9月10日に開催されたデモに参加した。

Polycom OTX 300(ポリコムジャパン資料)OTX 300は、実際にはまだ日本には設置されていないため、アメリカアンダーバーのPolycom OTX 300が設置されている部屋から、ポリコムジャパンに設置されている「Polycom TPX」に接続し、その部屋にいるアメリカ人2人のスタッフからOTX 300の概要の説明を受けた。もちろん、アメリカ人スタッフ側のOTX 300内蔵の固定カメラのみでは、日本側から画面を通して見えるのはOTX 300の椅子に着席している彼ら2人のみであるため、OTX 300が設置されている部屋全体が見えるように、別の外部カメラ2台からの映像を切り替えて写しOTX 300の説明を行った。

OTX 300は、設置や移転が簡単なモジュラー式システムで、TPXの後継システムになるという。H.264ハイプロファイルや1080p解像度やステレオ音声、パケットロスリカバリー

(QoS)などに対応し、また、OTX 300でテレプレゼンスを行わない時は、通常の会議室としても使え、オフィススペースの有効活用にもつながる。現行のTPXと比べ性能や機能が強化され、従来よりもさらにTCOの削減も実現できる。とりわけ、H.264ハイプロファイルにより使用帯域を半減できる点は大きい。加えて、既存の200万台の国際標準に対応したビデオ会議システムとの接続はもとより、主要なユニファイドコミュニケーションプラットフォームとの接続もサポートされている。

日本側から画面を通して見えてきたOTX 300は、まず65インチのスクリーン3面と、6人掛けのテーブルだ。また別の外部カメラに切り替えてもらうと、その6人掛けの椅子の背面に設置されているリアウォールなども見える。説明によると、天井にはOTX 300に最適化されたシーリングマイクやライティングも設置されているという。



Polycom OTX 300(以下、ポリコムジャパン資料) 左側から、3つのスクリーン、テーブル、そして右端には、リアウォール。また天井には、ライトとシーリングマイク(ライトとライトの間に見える)が見える。

OTX 300の標準タイプは、全体的に、スクリーンやテーブル、椅子または天井や壁もふくめ白色系を基調としたデザインで、未来的(futuristic)な印象を持たせる。木目色が基調の「Polycom RPX」や「Polycom TPX」といった今までのポリコムテレプレゼンスのイメージとは一線を画す観がある。ちなみに、テーブルのカラーは変えられるようにはなっている。

まず興味を引いたのは、6人席のテーブルが前方の3つのスクリーンのうちの真ん中のスクリーンとつながっている点だ。RPXやTPXは、スクリーンとテーブルはつながっていない。一見なんでもなさそうなこのテーブル設計だが、

相手側も OTX 300 の場合、同じテーブルを共有しているという同室感を出すためのひとつの工夫だという。

また、テレプレゼンスでの会議を行わない時は、スクリーンとテーブルの間に 4 席追加することで 10 人掛けの会議卓に変身する。RPX や TPX でもこの点は同じだ。その際の遠隔地の参加者を映し出すためのスクリーンは、プロジェクター用のスクリーン代わりに使える。オフィススペースの有効活用を考えた場合、これは一石二鳥的な使い方を提供しているといえる。またテーブルは、RPX や TPX のテーブルに比べ、書類など広げやすくなったようだ。



Polycom OTX 300 使用イメージ



Polycom OTX 300 使用イメージ RPX や TPX と比べテーブルが広くなり、書類や PC の作業がよりしやすくなった。

テーブルについてはまだ面白い点がある。それは、テーブルに装備されている 21.5 インチサイズのモータ駆動式の自動昇降型コンテンツモニターだ。RPX や TPX のコンテンツモニターは手動開閉だったが、OTX 300 では、この点が自動開閉になった。このコンテンツモニターの自動開閉は、細か

いところだが、痒い所に手が届く機能だと思う。

余談だが、その開閉の様子を例えると、その昔筆者が子供の頃人気のスーパーカーのひとつであったランボルギーニカウンタックの自動で開閉するヘッドライトを思い出す。OTX 300 のコンテンツモニターは、カウンタックのライトのようにテーブルの中から顔を出す。コンテンツモニターの開閉を見ながらそういったことを思い出した。

ところで、そのコンテンツモニターの横には、複数の端子を揃えた電源や LAN ポートを格納したところがある。コンテンツモニターを使ったデータ会議には、パソコンを使用するのが一般的だが、そのための PC の電源や LAN ポートを簡単に利用できるようになっている。これによって、長い延長コードなどを準備する必要もないし、またテーブルの上や下での配線もすっきりする。

テーブルには、この他、タッチパネルがある。このタッチパネルで、OTX 300 のビデオコールの開始や終了などが行える。これは、RPX や TPX のタッチパネルと同じようだ。ポイントツーポイントだけでなく、多地点接続のコールにおいても参加端末をタッチパネル上で選択するだけで、簡単に通話を開始できるようになっている。なお、この OTX 300 による多地点接続については、「Polycom RMX」を通して接続される仕組みになっている。

さて、次に OTX 300 の後方に目を転じると、白色のリアウォールが見えてくる。このリアウォールは、OTX 300 環境における音響効果や全体的なデザインの統一感を出す目的がある。

リアウォールの表面は、起伏のあるストライプデザインが施されており、この波状の起伏が 3D 効果を実現している。実際、ポリコムジャパンの TPX の画面から見てみると、OTX 300 の説明をさせていただいているアメリカ人スタッフが 3D のように画面上に浮き上がっているように見えた。

一般的に 3D 映像という専用のメガネをつけることが多いが、この OTX 300 による 3D 効果は、専用のメガネを必要としない。起伏のあるリアウォールの前に人が座り、それを、映像を通して見ると、その人物が 3D のように浮かび上

がる仕掛けになっている。ポリコムとしては、こういった 3D 効果によって会議環境をよりリアルに近づけることで、会議の臨場感及び生産性向上に貢献できると考えている。なお、このリアウォールは、OTX 300 用のライトと同様にオプションで提供されている。

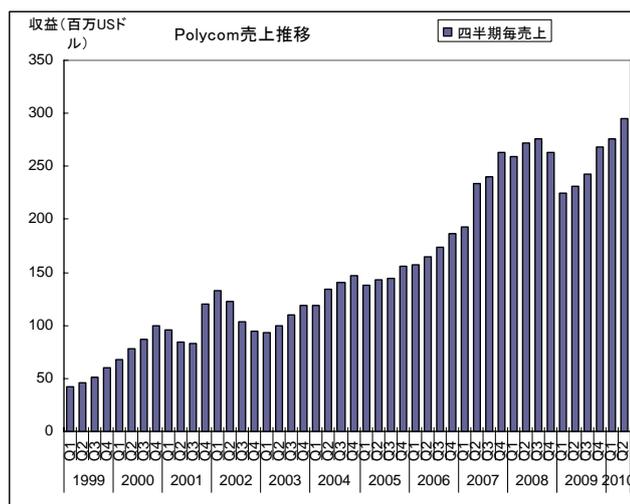
今回バーチャルデモを拝見して改めて思うのは、テレプレゼンスというのは、単にコーデックやスクリーン、テーブルや椅子を組み合わせればよいというものではなく、テレプレゼンスを行う会議室の全ての要素、つまり、コーデックやスクリーンだけでなく、部屋全体の統一感や雰囲気なども考えなければならぬということだろう。

それは、人間が使うシステムだからだ。遠隔会議システムを使いこなしたり、また会議の生産性を高めたりするにはとても大事な視点だと思う。

OTX 300 のデモを今回拝見することで、あらためてその感を強めた。今回はバーチャルなデモであったため、OTX 300 を“実感”することはできなかったが、OTX 300 の特長をプレビューできる機会がもてて良かった。

業績発表-海外

2010 年第 2 四半期(4 月-6 月) NASDAQ 上場企業 ポリコム (米国)



米ポリコム社は、第 2 四半期の業績発表を 7 月 15 日に行った(業績発表は、ストリーミングと電話会議により行われ

た。)。それによると、第二四半期の売上は、2 億 9500 万ドルで過去最高の四半期売上となった。この売上は、前四半期から 7%増で、また前年同期比 28%増。またキャッシュフローは、50 四半期連続でプラスに推移し、この四半期での現金残高は、4 億 8500 万ドル。無借金経営。

製品別売上では、ビデオ会議システムが 53%、ネットワークシステムが 14%、音声会議システムが 33%。

地域別の売上では、北米が 49%、EMEA(欧州中東アメリカ)が、25%、アジア太平洋が 22%、ラテンアメリカ(CALA)が 4%。

今期の特徴としては、まず製品関連では、(1)ビデオ会議の販売の加速、(2)テレプレゼンス製品において過去最高の売上を達成、(3)音声製品について約 6 年ぶりに売上が急速に増加など。一方で、地域別に見た場合、EMEA とアジア太平洋地域の売上が前四半期に比べ 2 桁の伸びを見せた。その中で、アジア太平洋地域の売上は、過去最高を記録したという。

ポリコムでは現在、顧客中心(customer centricity)の考えをベースに、(1)新たな人材採用などを含めたセールス部門の強化、(2)ソリューションなどを展示したエグゼクティブブリーフィングセンタの設置(世界 43ヶ所)、(3)プロフェッショナルサービスの提供、(4)UC パートナー企業やサービスプロバイダーとの連携強化、などを実施している。たとえば、UC パートナーとの連携によるユーザ案件については、そしてそれに伴う売上がポリコム全体の売上の 16%に達しているという。

同社が展開しているこれらの Go to market 戦略や The Polycom Open Collaboration Network パートナー(UC ベンダー)の展開が実を結びつつあるという。

(次ページへ続く)

セミナー・展示会情報

< 国内 >

検討企業様対象 「iPad 体感セミナー」

～ iPad を使うと会議はどう変わるのか？～

日時:10月5日(火) 15:30～17:00(受付:15:15)

会場:ブイキューブ本社 デモンストレーションルーム

主催:株式会社ブイキューブ

詳細・申込:

http://www.vcube.co.jp/secret_seminar/0830_1546.html

Web 会議の利用がイメージできる無料デモセミナー

日時:>東京 10月13日(水)15:00～17:00

> 横浜 10月6日(水)15:00～17:00

> 大阪 10月14日(木)、20日(水)、28日(木)

* 全て時間は、15:00～17:00。

場所:東京、横浜、大阪オフィス

主催:株式会社エフ・シー・エス

詳細・申込:<http://costsaver.jp/index.html#seminar>

会議の効率化を実現！『ConforMeeting 無料体験セミナー』 定期開催

日程:2010年10月6日(水)、13日(水)、20日(水)、27日(水)

※全ての日程で14:00～15:00、16:00～17:00の2回開催

会場:NEC 情報システムズ 本社(東京都港区)

主催:NEC、NEC 情報システムズ

詳細・申込:

<http://www.nec-nis.co.jp/topics/event/conformeeeting/seminar.html>

Web 会議 体験型ミニセミナー

～導入のポイントとは？品質実感プログラムのご案内

日時:10月7日(木) 15:00～16:30(受付開始 14:40～)

会場:東京本社、関西支社(大阪)

主催:ITX 株式会社

詳細・申込:<http://www.web-kaigi.com/event/>

Web 会議/Web コラボレーション SaaSBoard 無料セミナー 『クラウドコンピューティング時代における劇的経費削減の方法』

日時:10月22日(金) 13:30～17:00(13:00 開場)

会場:渋谷区商工会館 2F セミナー室

主催:ニューロネット株式会社

共催:ライド株式会社

詳細・申込:<http://www.neuronet.co.jp/seminar/formservice.cgi>

*ニューロネットの Web 会議サービス SaaSBoard と、ライドの SpeeVerGW と SaaSBoard の統合事例の紹介、Q&Aフリーディスカッション、そして終了後は、懇親会(実費:¥3,000～¥5,000 程度。希望者のみ。)

IT pro EXPO 2010 ビジュアルコミュニケーション 2010

日時:10月18日(月)～20日(水)

会場:東京ビックサイト東4～6ホール

主催:日経 BP 社

詳細・申込:<http://itpro.nikkeibp.co.jp/expo/2010/vc/index.shtml>

*展示と、講演(ビジュアルコミュニケーションフォーラム)。講演では、

シード・プランニングの市場動向の講演あり。

< 海外 >

VCI-Group

First Annual Conference - Light the way

日時:10月3日-6日

会場:米国フロリダ州、フォート ローダーデール

主催:VCI-Group(ユーザグループ)

詳細・申込:<http://www.vci-group.org/events/agenda.aspx>

*テレビ会議ユーザ団体によるカンファレンス。

The Business Communications Strategies Summit

日時:10月4日-5日

会場:米国ワシントン D.C.

主催:UBM TechWeb

詳細・申込:<http://www.enterpriseconnect.com/summit/>

*招待参加者のみの有料カンファレンス。ただし参加希望の場合はサイトから申込を行う。

The WR CSP Summit - Boston 2010

会期:10月12日

会場:アメリカ マサチューセッツ州 Hilton Boston Logan

主催:Wainhouse Research, LLC

詳細:

<http://www.wainhouse.com/events.php?sec=34&opt=upcoming&event=333>

編集後記

今回もお読み頂きまして有り難うございました。

昨日ソニーが HD 対応オールインワン一体型のビデオ会議システムの新製品を発表しました。機能を拝見すると低コストで一体型でありながら、結構いろいろなシーンや使い方ができそうだなという印象を持ちました。

その他では、注目したのが、シャープによるテレビ会議とWeb会議をクラウドで提供する事業会社の設立、また、ブイキューブなど日本のWeb会議ベンダーの海外への展開、一方、海外になりますが、アバシアによるビデオ会議製品の発表やスカイプとの提携、また、シスコシステムズは、最近スカイプ買収の噂があり一時話題になりましたが、今度は、来月10月にホームテレプレゼンスの発表があるとの話も聞こえてきています。

スカイプなどのフリーの VoIP と遠隔会議の連携やコンシューマ向けのテレプレゼンスがどうなっていくのか、こちら辺りがこれから数年市場動向を見ていく上で、ポイントになるのかもしれない。

上記関連の記事は次号以降掲載していく予定です。次回もよろしくお願ひ致します。(橋本啓介)